

第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

報告書資料 一般-05

学校名・団体名	仙台市立向山小学校
HPアドレス	http://hogwarts.sendai-c.ed.jp/~mkaiyama/index.html
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	相手意識を持ちコミュニケーションを楽しむ児童の育成
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>進んで人とかかわり、相手意識を持ってコミュニケーションを取ることが楽しいと感じる児童を育てる授業の在り方を、外国語活動の授業実践における「教材の工夫と効果的な活用」及び「小中連携」を通して探る。</p>	

1 活動の実際

(1) 教員向けの現職教育 (5月, 7月, 11月)

ねらい 全国大会を念頭に入れた外国語活動の研究について, 全職員で研修を深める。

内容 ○金森強先生 (関東学院大学大学院教授) をお迎えしての授業参観及び研修会

- ・研究授業 (3年, 4年, 5年, 6年, 6年と中学1年による小中連携の5コマ×3回)
- ・研修会 (外国語活動の授業で育てたい力, コミュニケーション力を高める教材の開発, 目指すべき小中連携の授業)



3 学年授業



5 学年授業



小中連携授業



研修会

(2) 児童の実態と目標にマッチした教材の工夫 (全学年)

ねらい 言葉が言葉として機能するために, オリジナリティあふれる教材を工夫して作成する。

内容 ○外国語活動の授業実践

学年	時数	教育課程編成上の扱い	主な内容
特別支援	5 時間	創意の時間	挨拶・自分の気持ち, 好きな動物
1 学年			好きな色, 果物
2 学年			好きな野菜
3 学年	10 時間		数, 好きな形
4 学年			好きな動物, おやつ
5 学年	35 時間	外国語活動	世界の挨拶, クイズ, 好みの衣服, クリスマスに欲しい物, 好きな教科, ランチメニュー作り
6 学年			アルファベット遊び, 誕生日, できる・できない, 行きたい国, 時刻, 将来の夢

○「Hi friends!」の指導計画に基づき, 児童の実態に合わせて作成した自作教材

- ・好きな物を尋ね合うために準備した豊富な絵カード (動物, 果物, 野菜, おやつ, 形, 衣服など)
- ・ペアやグループで取り組むためのすごろくゲーム (動物園, 欲しい物, できること, 将来の夢など)
- ・言葉をイメージするためのICT教材 (果物, 野菜, 色, 形, 数, おやつ, 動物, 世界の国など)
- ・児童に考えさせる時間を十分に確保するために少しずつ提示できる絵巻物 (世界旅)



5 学年・友達の良い好きな衣服



児童の作品

ペアを作り, 好みの衣服を尋ね合わせた。さまざまな洋服の「お店」を作り, 店主役と買い物をする役を交代で行い, 友達のための衣服を揃えるコミュニケーション活動を行った。

児童の思いを生かすために, 帽子や靴, バッグなども含めて約2,500枚の衣服の絵カードを作成した。全てラミネート加工し, 学校支援地域本部に依頼して裏に磁石を付けて, マグネット板に貼って活用した。(他の単元でも, 「お店」の活動をする際には様々な絵カードを作成し, 使用した。)



特別支援・どうぶつだいすき

対話をして好きな動物カードを集め、みんなで動物園を作るコミュニケーション活動。



1学年・くだものであそぼう

グループで1枚のシートを使い、果物の名前を聞いて指さしをするドリル活動。



2学年・果物・野菜大好き

友達と対話し、好きな果物・野菜カードを集めるコミュニケーション活動。



3学年・色と形で遊ぼう

ペアで1枚のシートを使い、図形の色と形を声に出して言いながら迷路を進むドリル活動。



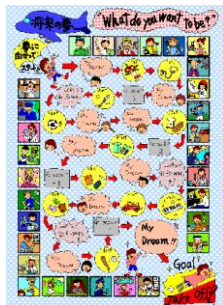
4学年・向山スーパーマーケット

グループで絵カードを使い、友達の好きな果物や野菜、おやつを尋ね合うためのドリル活動。



4学年・向山スーパーマーケット

友達の好きな果物などを尋ねる表現に慣れ親しむためのICTを使ったドリル活動。



将来の夢を尋ね合う表現に慣れ親しむためのドリル活動で使用するすごろく。

6学年・何になりたい？



行きたい国を尋ね合うための絵巻物を使ったドリル活動。

6学年・どこに行きたいの？

(3) 第12回全国小学校英語活動実践研究大会仙台大会(2月)

ねらい
内容

これまでの本校の取組について、公開研究会を通して全国の先生方に発表する。

○公開授業(3年, 4年, 5年, 6年, 6年と中学1年の5コマ)

○事後研究会

(指導助言: 文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 研究開発部
教育課程調査官 初等中等教育局 教育課程 教科調査官
国際教育課 外国語教育推進室 教科調査官 直山 木綿子先生)



事後研究会

2 成果と課題

- 「相手意識を持ち、コミュニケーションを楽しむ児童」を目指し、低学年から授業実践を積み重ねた成果が、英語で感想を述べる中学1年生の姿として表れ、小中連携授業における交流活動を成立させることができた。
- コミュニケーション能力の素地を養うための授業の在り方や教材の在り方について研究を進めた結果、相手の気持ちに寄り添い、互いに関わろうとする児童の姿がどの学年でも見られ、身に付けた英語を使って意欲的に自分の思いを表現する活動に取り組むことができた。
- 小学校と中学校の間で、目指す児童像・生徒像の具体的な姿を共有化した上で授業に取り組んでいくことが大切であることが分かった。